

日達上人の位牌

廣 田 頼 道

昭和五十四年（一九七九年）七月二十二日日達上人が亡くなられた。

足掛十九年の時間が流れた。

*

日達上人が亡くなってから今日迄、色んなきっかけで何件かの寺院を訪れることがあった。その中で何件かの寺院で、日達上人の位牌を須弥壇の一角に、御水、檜、ローソクと共に御飾りしている寺院や、精霊台の檀信徒累代之霊の位牌に並べて、常に安置し、毎日の朝夕の勤行の折に灯明をつけて追善供養されている寺院を拝見した。もちろん日達上人の弟子に当る住職であります。

私は全ての寺院を廻ったわけでも、日達上人の亡くなった日から現在迄、弟子達がどの様な姿で供養されているか、継続して拝見しているわけではないので、どこの寺がどうなっているということは、具体的には分らない。

そして、ここに述べることは、個人的な批難や中傷や指弾ではなく、こういう化儀が富士門の化儀にかなって

ることなのかどうかということをして、している人もしていない人も全体で考えなければいけないのではないかと思ひ、そのきっかけにしてみたいと問題提起するのであります。

富士門は位牌を亡くなった人に見立てることはしません。もちろん位牌が故人ではないし、身替りにもなれないのであります。それ故富士門は妙法蓮華經の題目を頭に書き、この題目の下に戒名を示し、題目によってこの戒名の故人が成仏する「妙法經力即身成仏」をそのままに位牌に表わしているのであります。位牌を故人に見立てる他宗と富士門の位牌は違ふのであります。にもかかわらず富士門の者が位牌を故人に見立てて位牌を扱うことは、とてつもない間違いであります。

富士門では御信者さんが亡くなった時には葬儀から四十九日迄の間は、白木の位牌を当家に置き、四十九日迄に過去帳に記入し、四十九日の忌明けには、位牌を寺に納め、処分をします。漆塗りの位牌を他宗の様に作らせる日蓮正宗の僧侶もいますが、間違っている事でも、永年続けていると僧俗共に正しく感じ、あたり前となり、改めることが出来なくなってしまうのだと思います。しかし、そういう行為は随方毘尼でもない、日蓮正宗の教

義から外れることであることを良く考え、反省しなければいけないと思ひます。

富士門は他宗の親族の感情を考え、命日や回忌の時に出して飾る為に位牌を残し、保管するにしても、何十年経過しようとも白木のままであるべきであります。歴代貫主の位牌も白木のまま留め置かれていたのであります。大石寺の客殿では、満山供養の時だけ、御宝前須弥壇の右前方一角に位牌を立て、参詣者用の焼香台に致る迄、常設佛具ではなく、仮設簡便な机にて、その時だけそこに用意をするのであります。

六壺にて登山者願ひ出の塔婆供養、納骨の廻向をする場合も、常設佛具としての精霊台も位牌もなく、塔婆立てと、御骨置の簡便強固な台と焼香台があるだけの状態であります。本山大石寺のこの姿が、本来の富士門の追善供養のあるべき化儀の姿であると思われるのであります。つまり亡くなった人を中心せず、御本尊を中心にしてこそ、故人の追善供養並に成仏が遂げられるという姿勢であります。

末寺や、塔中になると、法事を願ひ出る願主となる富士門の信徒に縁して参詣する他宗の人々が入り込みますから、その人々の感情を考慮し、本堂佛具と同じ漆塗り

の常設の仏具を用いて、他宗の富士門の教義、化儀に対する理解や認識のない人々の故人を思う気持や悲しみの心を逆撫でしない様、形の上でも丁寧に扱っていることを示す為に行っていることであって、本当の富士門の姿ではなく誘引の姿なのであります。

この誘引も過剰になると間違いを生じ、古い寺院では、本堂に位牌堂を造り、亡くなった御信者の位牌を預り、安置し、寺院によっては、位牌堂の中に御本尊を中心に安置し、水を供えること迄行っている寺院もあります。

何故位牌を故人と見立てない富士門で、位牌を故人と見立てて預り安置する化儀を創作しなければいけないのか？寺院に縁する御信者に世間では位牌を故人に見立て扱うけれども、そういう姿は本当のあり方ではないんですよ、富士門では御本尊を中心にこそ故人の成仏が叶うんですよ、ということを教え導くことが大切であり必要なことだと私は思うのであります。

日達上人の位牌の安置にしても

①自分の師匠であるならば良いのか。

②貫主だった方であるならば良いのか。

③正信覚醒運動の生みの親ならば良いのか。

④の師匠であるならば良いというならば、御信者さんの親の位牌があっても、それは間違ったことではないこ

とになります。

⑤の貫主は特別、特例で良いというならば、各寺院の住職の師匠や縁故の貫主の位牌があっても間違ったことではないことになります。

⑥も個人の感情であり、御信者が感情にまかせて仏壇の中に位牌を故人と見立てて林立させても間違ったことではないことになります。

私心無く、一切衆生の成仏を「乃至法界平等利益」「妙法経力即身成仏」と願って行くのが富士門信仰者の姿勢であり、特に僧侶はやって見せ、言って聞かせて、させて行かなければいけない役割だと思っております。

十九年間、その様に安置して来てしまった方は、所属の御信者さんの眼にも慣れ、その姿が当然の様に、正しい様に定着していて、改めることはむずかしいかもしれません。しかし私は改めるべきだと思えます。

飽くまでも日達上人の位牌を常設にせず、命日忌、祥月命日忌、回忌法要の時のみに安置し、供養すべきが富士門の本當の姿であると思えます。

日達上人も法に叶うべく改めることを喜ばれると思えます。そのことが本當の日達上人への報恩謝徳になるはずであります。